

話し合い活動を取り入れた学びを深める社会科の授業づくり ー公民教材を活かしてー

みなべ町立上南部中学校
教諭 松本 尚 美

【要旨】

社会科における生徒の学びを深めるために、話し合い活動を取り入れた授業づくりについて研究を行った。学びを深めるとは、学んだことを使って自分の考えをもち、他者との交流を通してその考えを練り直し、物事の本質に迫ることであると考える。授業中に意図的に話し合い活動の場面を設定した。具体的には、段階による課題を設定した単元を構成し、話し合いの形態及び方法を工夫した上で学び合いの活動を行った。話し合い活動で思考する活動と表現する活動を繰り返すことにより、論理的な思考力を高め、自分の考えを見直し、より深い学びに向かう生徒が増えた。

【キーワード】

中学校社会科 公民 話し合い活動 単元構成 学び合い 振り返り

1 テーマ設定の理由

(1) これまでの教科指導を振り返って

所属校では地理的分野・歴史的分野を第1学年・第2学年を通して扱う。本年度の第3学年は、筆者が2年間社会科を担当し、担任としてもかかわってきた学年である。本学年は、第2学年の段階で、教科書の基本的な内容を把握できている生徒が多かった。その一方で資料を活用し比べたり関連付けたり考えを深めたりすることに課題が見られた。これまでの授業では、資料や社会的事象を身近なものとして結び付けて考えたり、学びを深めるための生徒同士の学び合いを生かしたりする場面の設定が不十分であったと考える。

(2) 学習指導要領から

本年度から中学校において、新しい学習指導要領が実施となった。中学校社会公民的分野の目標に「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」(※1)とある。この目標の達成のためには学習活動の中で、話し合い活動を通して、自分と他者との差異からの気づきや、根拠を探究する場面を取り入れた学び合いを学習活動に組み入れることが効果的と考える。また、これは筆者にとっての指導上の課題とも重なる。

(3) 話し合い活動を社会科の授業に取り入れる意義

社会科は、公民的資質を育成することを目標とする教科である。社会科の授業に話し合い活動を取り入れることは、公民的資質の育成にも有効であると同時に、社会科の学びを深めることにつながると考える。学びを深めるとは、学んだことを使って自分の考えをもち、他者との交流を通してその考えを練り直し、物事の本質に迫ることであると考える。話し合い活動を成り立たせるためには、疎外感や孤立感のない民主的な学習集団を形成することが重要となる。生徒の発達段階を踏まえ、日常の授業の中で養われる合意形成、相互理解、人権尊重にかかわる力とともに、話し合いにより多面的・多角的なものの見方や考え方に触れ、自己決定の場としても意識し、省察する力が育成されたと考える。

本研究で目指しているのは、生徒たちが習得した「見方や考え方」を話し合いの場面で活用し、話し合う経験を重ねた生徒たちに、合意の仕方やきまりの意義に気付かせ、互いに尊重しながらよりよい社会を形成していく態度を養わせる社会科の授業である。

話し合うにはまず学習内容についての知識・理解が必要である。その上で、他者の考えを自分の考えと比較して聞いたり論理的かどうかを考えたりする思考力や判断力、自分や集団の意見として表明し自分の考えを人に理解させるための表現力を、自主的な思考過程を通して得させることができると考える。つまり、話し合い活動を単元の学習に効果的に位置付けることで、思考力、判断力、表現力等の育成に高い効果があると考え。そして、話し合い活動により、生徒が既存の経験や知識を用いて、選別したり修正したりしながら考えを発展させ、次第に物事の本質に迫ることができると考える。

本研究では、テーマを「話し合い活動を取り入れた学びを深める社会科の授業づくりー公民教材を活かしてー」と設定し、生徒たちが積極的に学習に参加し、学び合う実践研究を行うこととした。学びを深める過程において、生徒が生活体験と学習内容を結び付けながら、互いの内にある考えを引き出し合い地域社会の課題について話し合うことにより、地域社会に対する関心の高まりとともに、自分から意欲的にかかわってこうとする態度を養うことができると考える。また、学習のねらいに即した話し合い活動の形態・手法の工夫、支援の仕方により、生徒が活発な意見交流や討議を行い、多様な考えを引き出し、思考力、判断力、表現力等を高めながら、学びを深める授業づくりができると考える。

なお、生徒の当面の課題に対する手立てとして、各授業において資料を活用する力や論理的な思考力を高めるための個人の活動とグループの活動を組み合わせた展開を多用する。社会科への苦手意識をもつ生徒に対しては、授業の中で他者の考えを聞き、自分の考えを深めた経験を増やすことにより、学習内容への理解と関心を高め、苦手意識の克服につながると考える。

2 研究の概要

本研究で設定した研究テーマ、研究の内容、目指す生徒像を研究構想図（図1）に示す。以下に研究仮説と内容を述べる。

（1）研究の仮説

社会科の授業において、話し合いの場面を設定し、個人の活動、グループの活動を組み合わせる学び合いの活動に段階別の課題を組み入れた指導の工夫及び支援を行えば、思考力、判断力、表現力等を高めながら、学びを深めることができる。

（2）研究の内容

ア 段階による課題を設定した話し合い活動

（ア）単元構成における段階的な話し合い活動の場面の設定

検証授業（単元全7時間）において、各時間に話し合いの場面を設定した。

- ・全員が発言でき他者の意見を尊重できる。
- ・適切な情報を選択することができる。
- ・資料を活用し、自分の考えを根拠・理由を示しながら述べることができる。
- ・理解を深め、自分の考えを述べることができる。
- ・自分の考えをまとめて発展させることができる。
- ・自分の考えを深め、考えを交流しグループの意見をまとめることができる。
- ・自分の考えを見直し、新たな認識をもつことができる。

の7つの段階を設け生徒の変容を見取りながら、活動の内容をステップアップさせ、すべての生徒の力を引き上げることを考えた。

次頁図2は検証授業における教師の働きかけと生徒の変容を示したものである。

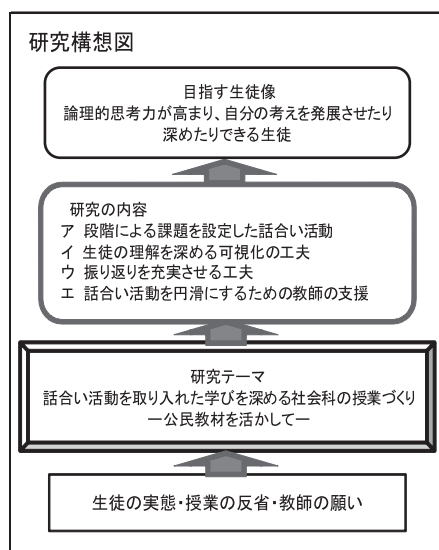


図1 研究構想図

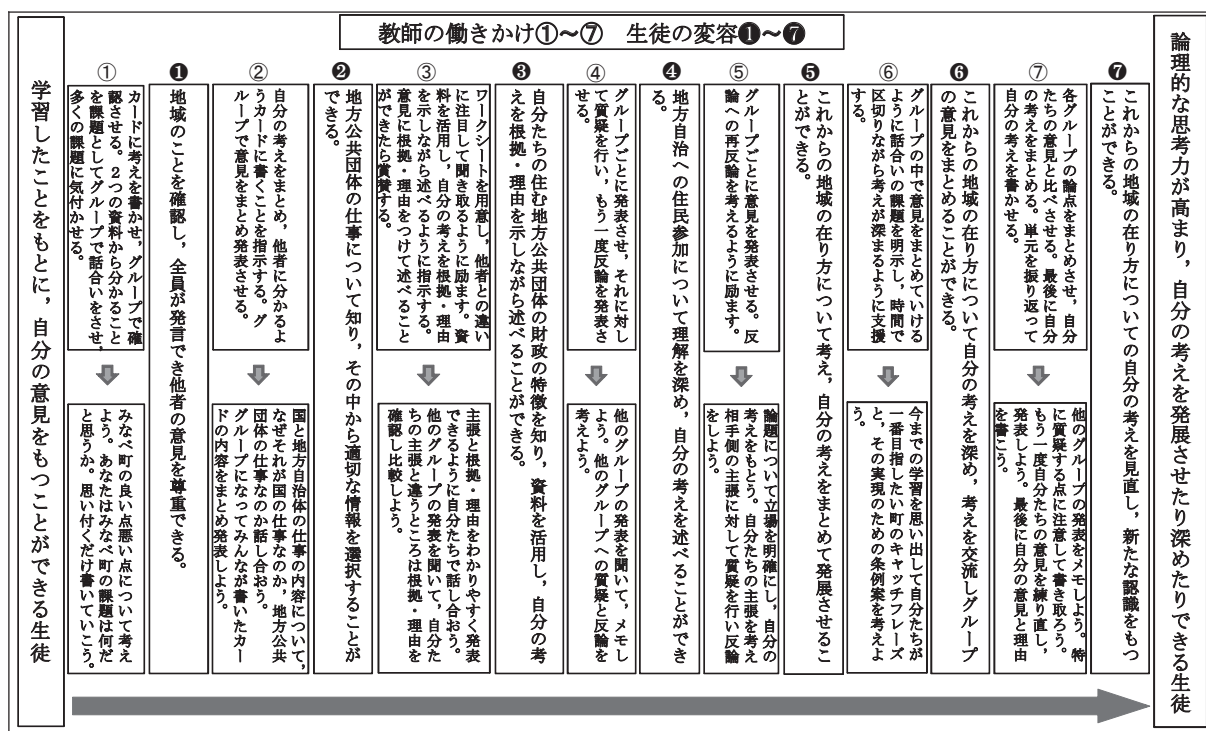


図2 検証授業（単元全7時間）における教師の働きかけと生徒の変容

図中の「学習したことをもとに、自分の意見をもつことができる生徒」は現在の生徒の姿を指したものである。このような生徒に対し、単元を通して段階的に話し合い活動の内容を組み立て、体験を積み重ねさせることで、「論理的な思考力が高まり、自分の考えを発展させたり深めたりできる生徒」へと変容させることを目指した。

これまでの授業では全4次（4時間）で扱った内容であるが、発展的な学習として条例案づくりを取り入れた全6次（7時間）の単元とし、段階別の課題を組み入れた。

図2の「教師の働きかけ①～⑦」の上段は教師の支援、下段は主な発問や指示、「生徒の変容①～⑦」は社会科としてのねらいと話し合い活動により促す生徒の変容である。生徒の変容を促すための教師の手立てや話し合い活動の段階に応じた指導のポイントを授業ごとに計画し、授業内容に応じて話し合い活動の形態や手法などを組み合わせ、生徒が互いの考えを生かし合い、各時間における学びを深めることを考えた。

各時間に扱う話し合い活動の形態と手法としては、第1時では、ペア、グループで行い、カード法を用いたバズ学習を中心としている。第2時・第3時は、グループでのバズ学習とカード法、第4時はグループでのバズ学習とカード法に加えブレインストーミング法を用い、第5時はペア、グループでの活動後、全体でディベートの要素を用いた話し合い活動、第6時はグループでのバズ学習とカード法、第7時はグループでのバズ学習と全体討議を計画した。

以上のようにそれぞれの話し合い活動の形態や手法などを、生徒の変容と授業内容に応じて組み合わせながら、話し合うための生徒のスキルを高め、それぞれの学びを深めることを考えた。

(イ) 思考する活動や表現する活動の繰り返しと振り返り

小西(2010)は、社会科学習における思考活動(注1)と表現活動(注2)の二つの活動を充実させ、繰り返し行うことで、「授業実践を通して、自分の考えを表現し合ったり、交流したりすることは、自分の考えを深めたり広げたりすることに有効な手だてであることが確認できた。」(※2)と述べている。

本研究では小西(2010)の研究を応用し、各授業時間と単元全体の中で、個人、

ペア、グループ、全体での思考する活動と表現する活動を繰り返すことで、生徒の思考を深める。

イ 生徒の理解を深める可視化の工夫

カードやフリップの利用により、個人の思考、集団の思考のそれぞれの過程を目に見える形で示し、個人と集団の思考のつながりを確認させることで、学習内容を整理し理解を深める。

ウ 振り返りを充実させる工夫

各授業の終了直前に生徒が個人の学習を振り返る時間を設け、振り返りシートによる学習のまとめを行う。振り返りシートは授業後に回収し、教師のコメントを加え、次時の導入部で返却し印象的なものを全体に紹介することで次の学習への意欲付けとする。また、検証授業を通して生徒たちが自らの変化を確認するものとし、教師の評価の補助資料とする。

エ 話し合い活動を円滑にするための教師の支援

加藤(2007)は話し合いにおける「話す」「聞く」をかみ合わせるための教師の支援として、

(ア) 生徒同士の発言をつなぐこと(他の生徒への橋渡し)

(イ) 生徒の発言に対し励まし賞賛すること

(ウ) 発言の根拠を聞き出すこと

(エ) 必要に応じて生徒の発言内容への質問・切り返しをすること

(オ) 他の生徒たちの思考を深めるきっかけとなる発言を見逃さないこと

を挙げ、話し合いを有効な活動とするには教師の支援の在り方が重要であると指摘している(※3)。

本研究では、話し合いを円滑に進められるように(ア)～(オ)に示された教師の支援を取り入れることを考え、単元を通して話し合い活動の段階を想定し、それぞれに課題を設定し、その変容を見取ることとした。

検証授業は、地方自治の単元において、7つの段階を設けて計画した。各授業に話し合い活動を取り入れて組み立てることにより、論理的な思考力、判断力、表現力等を高め、学びを深める中で、地域社会への関心も高まり自分から意欲的にかかわっていかうとする態度も養えると考えた。

(3) 検証の方法

検証授業では、研究の内容ア～エのうち、ア～ウを重点的に検証することとし、各授業の振り返りシート、検証授業の事前事後アンケート、生徒観察、ワークシートの記述内容から効果を分析し考察した。

振り返りシートは、5項目について「A、十分できた」「B、できた」「C、少しできた」「D、不十分であった」の4件法で回答させることに加え、授業内容に応じて複数の記述式項目を設定した。また、事前事後アンケートは15項目について「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」の4件法で回答させるとともに、学習の状況を測るため2項目を記述式とした。(振り返りシート、事前事後アンケートの項目及び分析はp. 17, 18参照)

なお、エについては、すべての授業をクラス全体とクラスごとに抽出したグループを映像で記録し、教師の支援と生徒の変容について確認した。

3 検証授業の概要と分析・考察

検証授業は、第3学年A組19人、同B組18人、単元「くらしを支える地方自治」において、10月4日から19日の間で実施した。

次頁表1は「くらしを支える地方自治」単元の単元構成表である。この表は図2に基づいて検証授業前に作成したものである。検証授業終了後、授業記録を基に修正を加えている。

表1 「くらしを支える地方自治」単元構成表

次	時	学習のねらい	学習活動における具体的評価規準
(1) 私たちのくらしと地方自治	1 ／ 7	・地方政治が民主政治の基礎であることを理解する。 ・地方政治の仕組みを理解する。 ・みなべ町の課題について考える。	・自分たちの住む地域のくらしと、地方自治とのかかわりに関心をもっている。【関心・意欲・態度】 ・地方議会や首長の仕事や両者の関係を通して、地方公共団体の政治の仕組みについて理解している。【知識・理解】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・地域のことを確認し、全員が発言でき、他者の意見を尊重する。	・地域のことについて考え、自分の考えと他者の考えとを比較、検討し、互いの意見を認め合いながら話合いをしている。
(2) 地方公共団体の仕事と財政	2 ／ 7 3 ／ 7	・地方公共団体の仕事が住民の生活と深くかかわっていることを理解する。 ・和歌山県とみなべ町の財政収入や支出の特徴を理解する。	・国と地方公共団体の仕事について考え、その過程や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】 ・国と地方公共団体の仕事の違いを理解している。【知識・理解】 ・地方公共団体の財政が、国に依存している問題について考え、その結果や過程を適切に表現している。【思考・判断・表現】 ・地域の地方公共団体の財政資料から、その特徴を読み取っている。【資料活用・技能】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・国と地方公共団体の仕事の特徴を知り、資料を活用し、その中から適切な情報を選択する。 ・地方公共団体の財政収入や支出について知り、自分の考えを根拠や理由を示しながら述べる。	・国と地方公共団体の仕事の特徴について、資料を活用し自分の言葉で説明している。 ・地方公共団体の財政が、国に依存している問題について資料に基づいて考え、根拠や理由を示しながら具体的に述べている。
(3) 地方自治と私たち	4 ／ 7	・地方政治では住民が直接、政治に参加できることを理解する。	・住民が直接政治に参加できる権利、住民運動や住民参加の制度が地方自治の中で果たす役割について関心をもっている。【関心・意欲・態度】 ・地方自治の意義等を踏まえ、住民参加の在り方について考え、その過程や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】 ・地方自治を実現するために直接請求権が取り入れられていることと地方分権の意義を理解している。【知識・理解】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・地方自治への住民参加について理解を深め、自分の考えを述べる。	・地方自治への住民参加について様々な意見を聞いて、自分の考えを他者に分かりやすいように適切な根拠や理由を示しながら述べている。
(4) これからの地方自治を考えよう	5 ／ 7	・自立した地域をつくっていくために、自らが地方の形成に参画する意欲をもち、具体的な地域の在り方について考える。	・身近な地域における特色をとらえ、これからの地域の在り方を考え、その過程を適切に表現している。【思考・判断・表現】 ・身近な地域における特色や、これからの在り方について適切に情報を選択している。【資料活用・技能】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・これからの地域の在り方について考え、自分の考えをまとめて発展させる。	・これからの地域の在り方について自分とは異なる立場の意見に対して吟味し検討を加えながら、自分たちの意見を根拠や理由をもとに適切に述べている。
(5) 条例案の作成	6 ／ 7	・地方の抱える問題点を踏まえながら、自分たちの目指す地域が実現できる条例案を考えて作成する。	・地域の課題について考察し、その改善案として条例案をまとめている。【思考・判断・表現】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・これからの地域の在り方について自分の考えを深め、考えを交流し、グループの意見をまとめる。	・これからの地域の在り方についてグループで考えを出し合い、自分たちの目指す地域像を追求し、具体的に確認しながら根拠や理由を示し、条例案としてまとめている。
(6) 条例案の提案	7 ／ 7	・各グループが考えた条例案を発表し、他のグループの発表も参考にし、現在の自分たちの地域に最も適した条例案を選択し、その理由を説明する。	・条例づくりを通して積極的に地域とかかわろうとする意欲が高まっている。【関心・意欲・態度】 ・自分たちの考えた条例案について、その作成過程を含め、適切に表現している。【思考・判断・表現】 ・地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組みについて理解し、その知識を身に付けている。【知識・理解】
話合いの様子を見る視点 (ポイント)		・これからの地域の在り方についての自分の考えを見直し、新たな認識をもつ。	・これからの地域の在り方について、グループ案を表明し合うことで、自分たちの考えに他者の考えの良さを取り入れて、考えを広げたり深めたりする中で意見をまとめている。

(1) 検証授業の概要

各時間の授業の展開と可視化の工夫（使用用具等）や話合い活動の様子（形態や手法）について次頁に示す。

【第1時】

みなべ町の良い点悪い点について個人で考え、カードに書き出し、その後グループでまとめたもの（図3）を黒板に掲示し、意見や感想をペアで交換した。次に、みなべ町の人口と南高梅の卸売価格の推移の2種類の資料を用い、みなべ町の課題について考え、個人でカードに書き出し、グループでカードをグルーピングし話し合いを行った。そして、町政に対する要望をグループでまとめ、A2サイズの発表用ホワイトボード（以下、「発表板」と記す。）に書いて発表を行った。

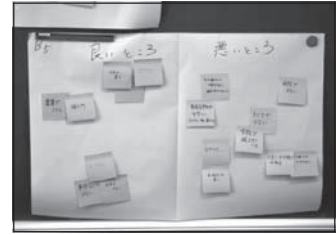


図3 カードによる意見集約

【第2時】

国と地方公共団体の仕事の違いについて、なぜ外交や防衛などが国の仕事なのかを教科書や既習の知識を活用して考え、理由を個人でカードに書き出した。グループで話し合い、その結果を模造紙に書いて発表した。また、戸籍や住民登録、ごみ処理についてもグループで考えをまとめ、発表板を用いて発表を行った。

【第3時】

主な都府県の財政収入のグラフについて、気付いたことを個人でカードに書き出し、グループで意見を共有したのち3つに絞り込み発表した。また、みなべ町の財政支出のグラフから特徴を見付け、個人でカードに書き出したのち、グループで考えをまとめ、発表板を用いて発表を行った。

【第4時】

これまでの授業で、生徒は根拠に基づいて自分の考えをまとめ、グループで活発に話し合うことができていたことから、より発展した学習が必要と考え、発問を「地方分権を進めると『良くなると思う点』と『不安に思う点』」へと変更した。個人でカードに書き出し、グループで考えをまとめ、発表板を用いて発表を行った（図4）。

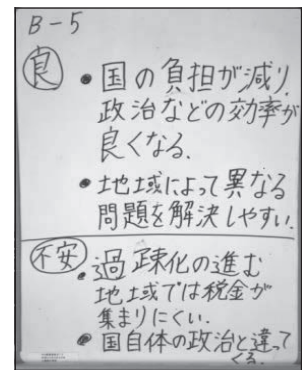


図4 第4時の発表板の記入例

【第5時】

発問を変更し、みなべ町を良くし、自立した地域にするために自分が住民の一人としてできることについて、「1）今すぐできること、2）がんばったらできること、3）みんなでがんばったらできそうなこと」を個人でワークシートに書き出し、グループで話し合い、その結果を模造紙に書いて発表した。次に、みなべ町をどんな町にしたいかを個人でカードに書き出し、グループで考えをまとめ、発表板を用いて発表を行った。

【第6時】

前時で考えたような町を実現するために、資料に基づいてグループ別に条例案を構想し、中間発表を行った（図5）。その際の質疑を通して自分たちの条例案の修正を行った。

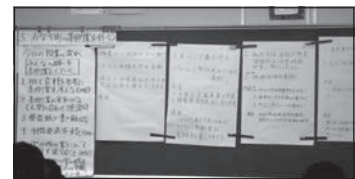


図5 中間発表時の掲示

【第7時】

各グループの条例案発表に対し、再度、相互に質疑を行い、修正条例案を作成し最終発表を行った。

（2）検証授業の分析・考察

検証授業の分析については、各時間の振り返りカード、事前事後アンケートの集計データをリカートスケール法を用いて数値化し、検証データとした。各時間（全7時間）の振り返りシートの結果は次頁図6に示す通りであった。

また、事前事後アンケートについても、次頁図7に示す。事前事後の数値比較においては、唯一、質問10において数値の変化が見られなかったが、その他14項目については、それぞれに数値の上昇が見られた。（質問9については、質問内容が難度を問うものであったため、数値が下がっていることを上昇と見る。）

これらの集計結果に加え、振り返りシート、事前事後アンケート（質問16、17）、ワークシートの記述項目の内容を用いて効果分析を行った。

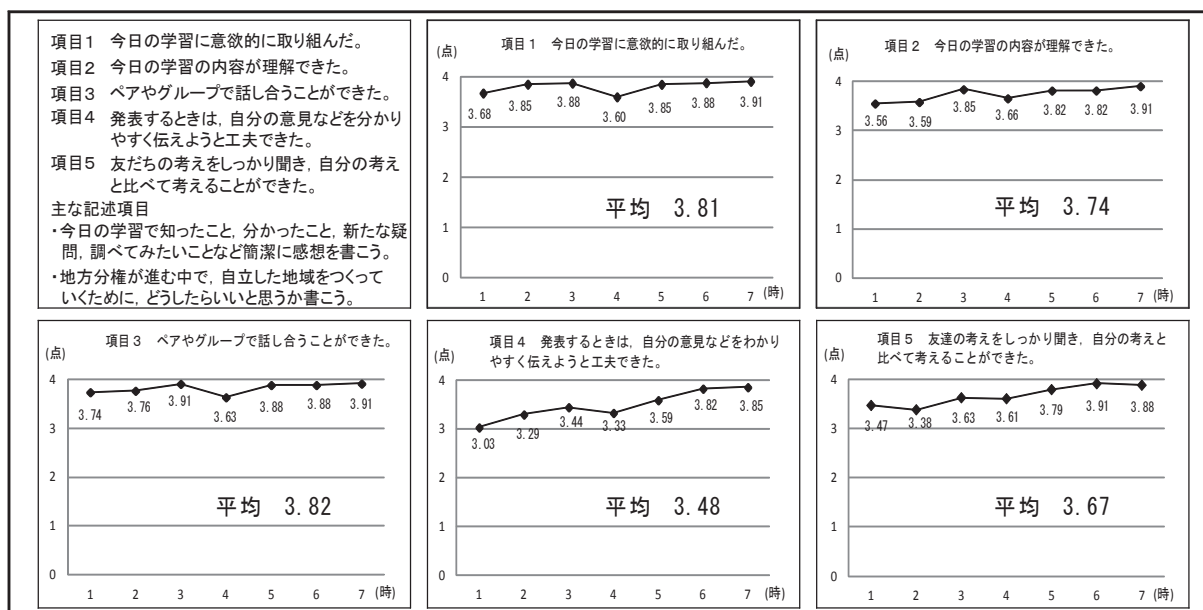


図6 振り返りシートの項目と集計結果

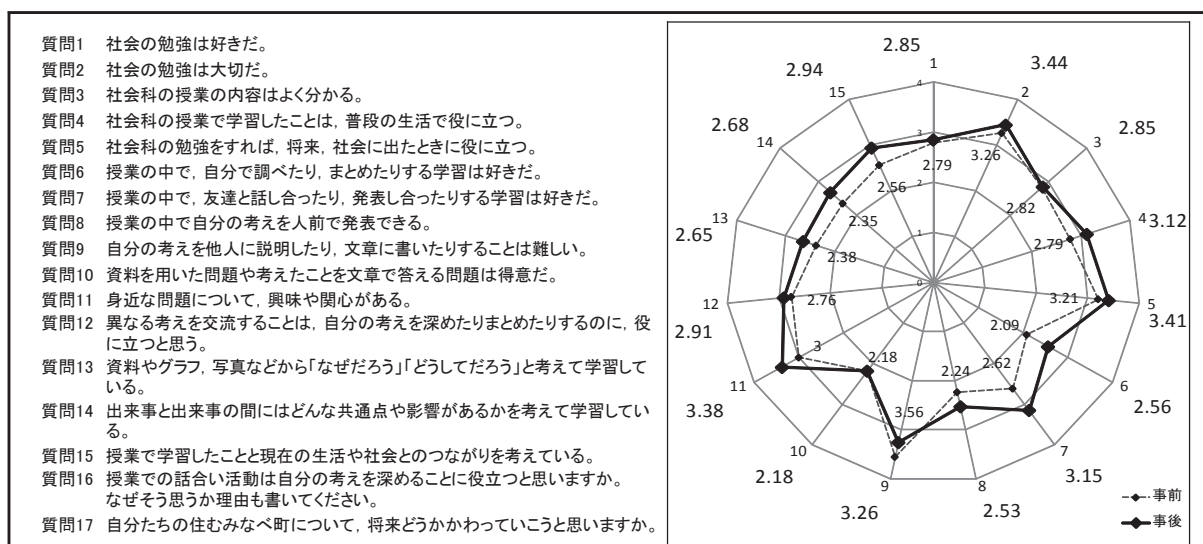


図7 事前事後アンケートの質問と集計結果（質問16, 17は記述回答のためグラフに反映していない。）

ア 分析

本研究内容が社会科における力にどのような効果をもたらしたのかを、4つの評価観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」に関係する項目の集計結果と記述内容から分析する。また「話し合い活動」についても分析を行う。

(ア) 関心・意欲・態度

図6の項目1の集計結果では、平均値が3.81であるとともに高い数値で推移している。また図7の質問1, 2, 4, 5, 12の集計結果では、0.06から0.33の間で上昇が見られる。さらに図7の質問17に対して、事前では34人中14人が「分からない」と回答していたが、事後では「分からない」の回答は無くなり、「町の特色である自然を生かした町づくりをしていきたい」等の回答が見られるようになった。これらのことから関心・意欲・態度がわずかではあるが向上していることがうかがえる。

(イ) 思考・判断・表現

図6の項目4, 5の集計結果を見ると、回を追うごとに上昇していることが分かる。また図7の質問13は0.27, 質問14は0.33, 質問15は0.38とそれぞれ数値

が上昇している。さらに第6時、第7時の振り返りシートの記述では、「意見を交換し合うと、いろいろな視点から見る事ができてよかった」「友達の意見を聞くことで自分の意見が深まってよかった」等の意見が多く見られた。これらのことから思考・判断・表現が向上していると考ええる。

(ウ) 資料活用の技能

図7の質問6は、0.47と大きく数値が上昇している。振り返りシートの記述からも回を追うごとに資料から差を読み取ったり、違いに気付く生徒が増え、「グラフを見るとその地域の特徴が分かる」等の意見が多く見られるようになった。また、資料から特徴を読み取るだけでなく、複数の資料と比較したりして関連付けることができる生徒が増えていったことから、資料活用の技能の向上が見られたと考ええる。

(エ) 知識・理解

図7の質問3は、0.03とあまり変化しなかったが、図6の項目2は、3.56から3.91へと比較的高い数値で上昇している。また、振り返りシートの記述では、「地方自治は国よりも私たちに身近なものなんだと思った」「地方自治がよく分かった」「地方自治には問題や不安な点もあるけれど、これからの地方にとって大切なことだと分かった」等の意見が多く、自分の住む町の事例と重ね合わせることで、地方自治の基本的な考え方や仕組みについての知識・理解は向上していると考ええる。

(オ) 話し合い活動について

図6の項目3は、平均3.82と高い数値で推移している。図7の質問7は0.53、質問8は0.29、質問11は0.38と今回一番上昇した観点である。授業では特に第6時と第7時で生徒の変容が見られた。第6時は、資料に基づいて考え中間発表を行い、各条例案に対して質疑、批判をし合うことで、より実現の可能性を考えられるものに修正していった。第7時では、ワークシートの記述から、すべての生徒が個人として、地域の改善について最も適した条例案を選択し、自分なりの根拠や理由を述べる事ができていた。振り返りシートの記述にも「一人では難しいと思ったことも、グループやクラスのみんなの意見を取り入れるとよく分かった」「みんなでさまざまな意見を出し合い議論することは、最初は抵抗を感じたけれど、回を重ねるごとに、だんだんとみんなの口数が増えていったと感じた」「この授業で条例を作ってこんな風に町のことを考えてよくしていくのかと初めて分かったのでよかった」等の意見が多く見られ、話し合い活動の効果が認められる。

イ 考察

以上の分析結果から考察すると、本研究内容に基づいて実施した検証授業において生徒の社会科における力が向上したと考える。また、その要因として話し合い活動が社会科の各観点の向上に作用していることも明らかになったと考える。

検証データからは、特に資料活用の能力と思考・判断・表現力に変容が見られた。資料活用の技能については、今回は集中して指導する時間を十分に確保したわけではないが、各授業で少しずつ設定した。その意味では、改善点として、7段階の中で第2、第3段階は同時に扱いながら、資料活用の時間を長くし個別に支援する必要性を感じた。資料活用の力を十分に高めた上で、第4段階以降につないでいく方が、より効果的であったと考える。思考・判断・表現力については、話し合い活動を通して、自分の考えをもつこと、他の意見と比較すること、まとめて発表することを繰り返した成果であると考ええる。

話し合い活動を円滑にするための教師の支援としては、生徒の発言をつなぐことや発言の根拠を聞き出すことなどを意識して行い、支援やアドバイスは、生徒の思考を中断させないよう必要最小限のものにとどめた。授業の流れや指示を明確にして掲示するようにしたことも効果があったと考えている。

課題としては、適切な課題設定が挙げられる。話し合い活動の設定課題によって理解の深まりが左右される面があるため、学習深度の差に配慮する必要がある。生徒の見取りを十分に行い、より適切な課題を設定できた時間もあったのではないかと

という点は、反省材料であるとともに、知識・理解についての変容が少なかった原因の一つではないかと考える。

生徒にとっては、これまでの授業展開と異なり、各時間に話し合い活動を組み込む展開に慣れていく必要があり、教師にとっても展開、支援にこれまでとは異なる視点や知見が必要であった。今回は、社会科の授業における話し合い活動の場面の設定として7つの段階を考えたが、生徒の習熟の度合いを見取り、当初設定した段階を基軸に、授業中の発問や指示を変えながら再設定する必要があるなど、今後の実践への課題も感じている。しかし、今回の成果から、本研究内容を継続して取り組むことで、学びを深める社会科の授業づくりに近づいていくのではないかと考える。

検証授業を公民的分野の地方自治の単元で行ったことは、既習の内容を活用しながら個々の学びを深める上で、生徒の地域への社会参加意識を高め、非常に有効であったと考える。しかし、他の分野においても本研究内容に基づく取り組みは有効であると感じており、今後の実践に生かしていきたい。

なお、振り返りシートの感想に、「みんなの意見が届いてくれたらいいな」と書いていた生徒も見られ、そのような思いを形のあるものにしようと、検証授業終了後に行われた文化祭でクラスの代表条例案（図8）を会場の壁面に掲示し、発表することになった。生徒が自分たちで考えた事を交流し練り合う中で、外部に向けて発信したいという意欲の表れとともに、学習の評価を求める行動ととらえることができる。このことは、本研究でねらいとした「学びを深める」効果が現れたものとする。

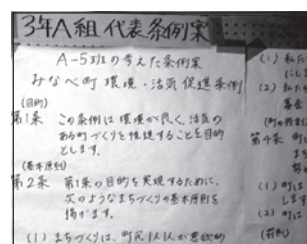


図8 条例案の例

4 研究のまとめ

本研究では、社会科の授業において話し合いの場面設定と、その形態・方法を工夫した学び合いの活動を行った。また、段階別の課題を組み入れた指導を行い、生徒に活発な意見交流や討議を積み重ねさせることで、思考力、判断力、表現力等を高めながら、生徒個々の学びを深めようとするものであった。本研究を通して明確になった話し合い活動の有効性と教師の働きかけの重要性を次に述べる。

(1) 学びを深める社会科の授業づくりににおける話し合い活動の有効性

本研究内容アの段階による課題を設定した話し合い活動としては、単元構成において段階的な話し合い活動の場面を設定したことで、指導のポイントが明確になった。また、思考する活動と表現する活動の繰り返しを、個人、ペア、グループ、一斉の形態で変化を付けて行うことにより、生徒の思考を深めることができた。社会科の授業において、話し合いの場面を設定し学び合いを取り入れた指導を行うことで、資料活用の力や論理的な思考力を高めることができたと考える。

研究内容イの生徒の理解を深める可視化の工夫としては、個人の思考をカードに書き表し、グループになって模造紙に貼りグルーピングすることで、話し合いの土台作りをした。そうすることにより、人との思考の相違に気づき、話し合い活動において自分の考えを広げたり深めたりできた。

研究内容ウの振り返りを充実させる工夫としては、授業の導入部で前時の振り返りシートを用いて教師からのアドバイスや励ましを生徒個々へ与えた。また、本時の振り返りシートを配布し目標を読むことで、学習の見通しの共有と意識付けを促した。さらに学習過程を振り返るポートフォリオとしても活かすことができた。

研究内容エの話し合い活動を円滑にするための支援としては、指示や発問、説明等を模造紙に書いて黒板に掲示した。また、個人やグループの意見をカードや模造紙に記入させたのちに、意見を交流させる形を多く取り入れたことで、生徒の発言の回数を増やすことができた。

これらの工夫により、互いに関心を高め、既習内容を活用し新たな思考を引き出し合う生徒が増加した。それは授業を楽しく感じ意欲的に参加し刺激し合うことで、学

びの質が変わったからだと考える。このような生徒が増えると学習活動が活性化し、より学びが深まっていくと考える。

(2) 教師の働きかけの重要性

話し合い活動の活性化により学びを深めるには、安心して話し合いのできる場づくりのためのルール確立と提示が必要である。特に教科の指導場面では、そのルールを全員に周知し、常に意識させることが不可欠である。また、学びを深めさせる上で、教師が生徒のもつ力を見取り、生徒間での意見の対立を思考の発展へと導くような適切な働きかけが必要である。学びを深める話し合い活動とするには、生徒の実態に応じた学習課題の設定とその話し合いの目標や手段の明確化、適切な資料の提示や情報の精選、話し合いの形式の組合せを考えることが重要な要素である。

教師の働きかけにより、話し合い活動の中で生徒の意見を集約し話し合いを焦点化することは、教師がモデルを示すことで実感を伴う学びの瞬間を体験させることになり、生徒の論理的な思考力を高める有効な手立てとなる。しかし、指導者としてのスキルを高めていかなければ生徒の「学びを深める」ことにはつながらない。指導者は、生徒の発言や行動に気を配り、生徒の思考の流れを板書で表したり、資料や情報の精選のポイントを伝授したりする中で、話し合いがより深い学びに向かうように指導することが必要である。また、支援や介入するタイミングを見定めるような、話し合いの指導法を身に付け、指導者としてのスキルを高めていくことが重要である。

5 本研究を振り返って

検証授業を通して、これまで学習リーダー的役割を果たしていた生徒に加え、話し合いのリーダーとなる生徒も現れ、自信をもって話し合い活動に取り組む様子が見られた。このことは、生徒の社会科での学びに対する姿勢の変化であり、学習内容の定着に大きくかわる変容の表れである。第6時、第7時には、資料を活用した質疑応答の技術の向上も見られ、要点をとらえ、整理する過程が理解できたものと考ええる。

また、段階による課題を設定した単元を構成し、話し合いの形態、方法の工夫による学び合いの活動を行った。その結果、自分の考えを見直し、より深い学びに向かう生徒が増加したこと、生徒の学習内容への理解に深まりを感じられたことに加え、生徒だけでなく教師も話し合い学び合うスキルが向上したことも成果である。

なお、今回の検証授業を通し、生徒と生徒、教師と生徒との関係が良好となった。これは学びを深める体験の中で共鳴し、信頼関係が次第に変容したことが要因と考える。話し合い活動の経験は、生徒にとって他教科を含め、今後の新しい学びの場においても生かせる力が育成されたと考える。筆者にとっても教科指導上の自信となり、今後、生徒とともに授業をつくることや学習環境を好転させるという意味において指導の幅が広がったと言える。

<注釈>

注1 小西は自分の考えを伝え合い、友だちの考えと自分の考えを比較し、もう一度自分の考えを見直す活動のことを思考活動ととらえている旨を述べている。

注2 小西は視覚化して考える活動や、調べた事実を基にして考える活動のことを表現活動ととらえている旨を述べている。

<引用文献>

※1 文部科学省『中学校学習指導要領』p.42(2008)

※2 小西英生「社会科における思考力・表現力の育成をめざしてー思考・表現活動を通して、多面的に考察する力をはぐくむ指導の実例ー」京都市総合教育センター『小学校社会科教育』p.39(2010)

※3 加藤悦宏「話し合いを活用した社会科学学習指導の在り方ー公民的分野における実践を通してー」宇都宮大学教育学部附属中学校『研究論集第55集』p.26(2007)

<参考文献>

- ・浅野始央「中学校社会科の公民的分野における考える力を育てる学習指導に関する研究ー地域の将来を考える条例づくりをとおしてー」平成17年度岩手県教育研究発表会発表資料(2006)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(2008)
- ・岩田一彦・米田豊編著『中学校社会科「新教材」授業設計プラン新旧比較で授業はこう変わる』明治図書(2009)
- ・国立教育政策研究所「中学社会 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(2011)
- ・北尾倫彦監修『[平成24年版]観点別学習状況の評価基準と判定基準[中学校社会]』図書文化社(2011)
- ・文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集ー思考力・判断力・表現力等の育成に向けてー【中学校版】」(2011)